

(文化5年カ) 8月9日の手紙

半兵衛命日には、盛大な追善法要がおこなわれた旨、三木町の五百蔵又市より弥五兵衛に報せがありました。

平井村の厚情を、かえって気の毒がっていて弥五兵衛の人柄がうかがえます。

<前文欠け>

かれこれ 彼是致承知候。これより 自是差遣置候書付茂、御返却有之、相達致落手候。さて 其表半兵衛墓所江

六月十三日 何角と厚御心配御取計之趣、三木町五百蔵又市殿より被御申越、委細致

承知、御厚志之御事共不浅忝存候。乍然、先達而茂追々得御意候通、右様

之御世話ニ茂罷成候而者、其以迷惑至極気毒存候。

必々御造作ケ間敷儀者、無御座様致度頼入存候。猶罷登候ハハ其表江罷出、万々

めんじょうをこし 期面上、ぎょいをうべく 可得御意候。右為御再答如是御座候。恐惶謹言

神田弥五兵衛

八月九日

登啓花押

太右衛門様

御再答

猶々御家内御揃、弥無御障御暮候御事と診重(珍重)存候。御家内方江茂、宜御申伝

くださるべく 可被下候。且又本文ニ茂得御意候通、呉々茂御造作之儀無御座様いたし度、何分厚く頼

入存候。以上

※上記文中の其以迷惑至極を、『東播新聞 昭和42年6月18日付』は、甚以迷惑至極に作る